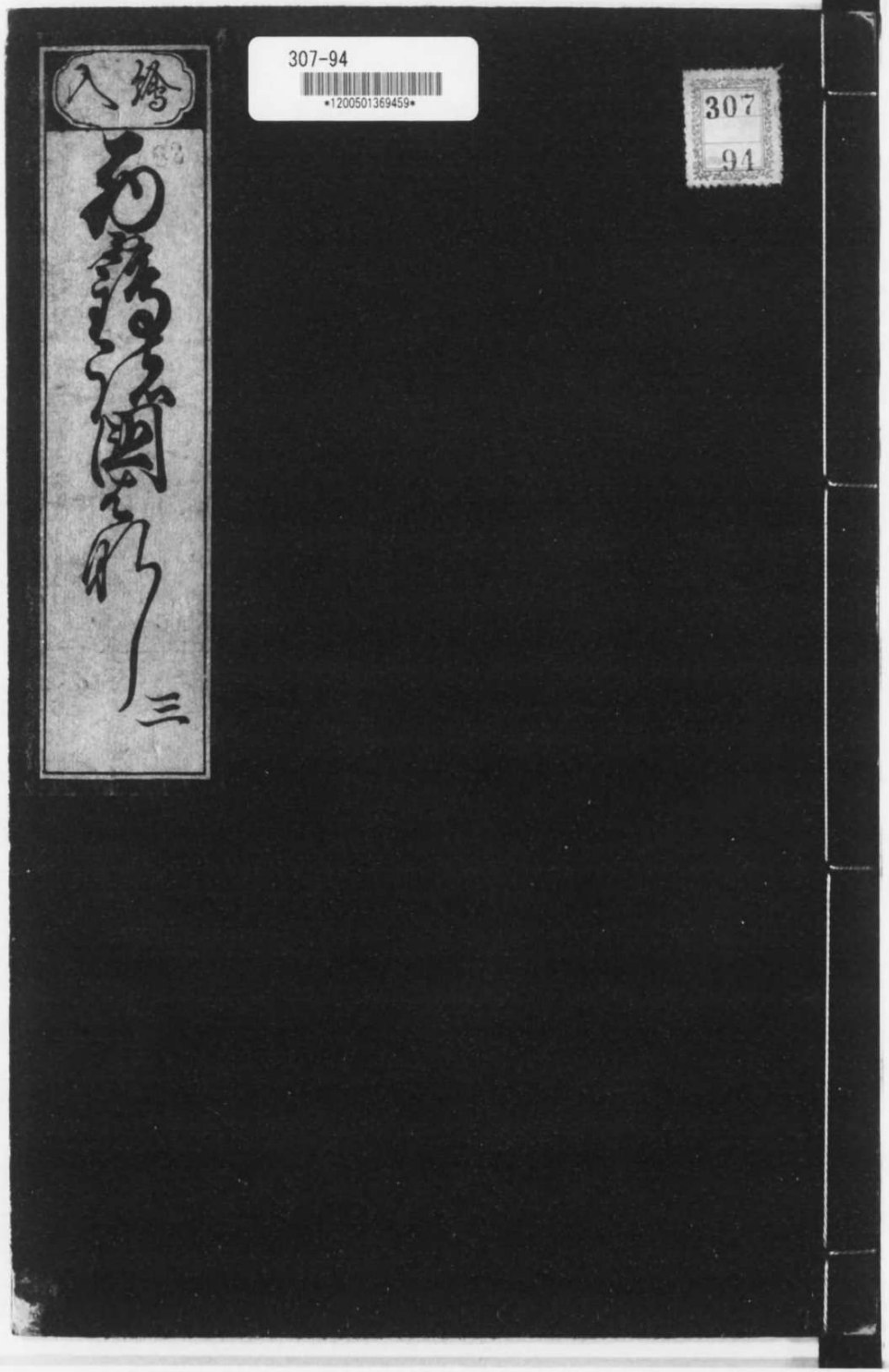


307-94
1200501369459
307
94

始

307
94

帝國圖書館藏

近年浪華名物

大下馬

同録

巻三

一 蛍乃籠ゆの　義勇
隆盛の國産にあるゝ事

二 西新乃焼物　兵事
京ゟ長吉町ゟ出る事

三 お菊月ゝ水仕　馬庶
大坂名産にあるゝ事

昭和六年 帝國圖書館

四 第女 美人
能登の国にあり事

五 り来の宝人 受分別
筑後の水海にあり事

六 八重咲の蓮華 名倍
吉野の奥山にあり事

七 因果乃ぬけ穴 歌折
但馬の国にあり事

蠶の籠ぬけ

富士見さんがく廣中の町も可ん時代とて人蠶
まなりぬ世をとりて所業まして事と物さくなく武道真
もむろ比捨ず廣く代宰人津の国集へとりせ一ぶいる
所馬に入事下人をに共独ずして抜ぬ事を借る
くらるる水十二月十八日の夜まし遊人大勝ちのびへ
蠶の宮人枕刀をぬき会せ四五人と切合ぬ内ちら何
も抜ハとまず逃なりて生ぬ起ず渡し
ぬ事まず同し町ちづきの紙屋より出入て出ぬ
し深清うけ放とりてり来ぬ乃鞘ぬ

てお会ハ侍よゝ八人とより海きあ侍ゞゝ切こかゝ四ゝ
ま法道具ゝとゝれてり蛇てのはんぎにゝしゝ
皆髭男ゝ大中ゝ指てまつるゝゝゝ侍ゝ侍ゝ宰
人の門ゝ血乃流ゝゝ侍世間ゝりゝゝゝ分
ゝ紀授ゝゝ世ハ見れなく往者ゝてあり侍ハ
いゝ侍者ゝとゝゝあゝゝゝ分にゝゝ
ゝゝ見ゝゝ侍ゝゝ食紙ゝて年月ゝゝ
ゝ年ゝて後ゝの竜者のゝゝ乃弟ゝ引ゝ
事ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝなりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

公義ゝゝゝゝ指ゝゝゝゝ乃
宮ゝゝ出ゝ侍川ゝゝゝ蛇乃見ゝて髭ゝゝ
ゝ紙ゝて佛ゝゝゝ侍ゝゝゝ
ゝゝ者ハゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ侍ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

まゝゝはゝらねゝゝになりてゝゝゝ

西新の燒死

東山の西よりの者、廣沢より月毎に、浮世乃かるしき事
どもつゞけよ長者町に酒つくり四春夏八月まるだの
屋敷に、さくらの花形ひしに、姫ゝ人のあり、乳婦とりて
そだてしに、八十歳になりしが、いづれも、雅にふさはしき事も
なき、美女なれば、人の思ひ、深かるべし、毎月新の名え
まで、初てかゝる事をとれいとき、縁組せしも、乃具とし、殘不
もなく、拾ゝ、なりてこれ、美人も、合長せず、拾の、見とし、聲
乃、慧しく、ふつゝ、風のうちとなりやうに、面ふ、宗門の、業師
み、捌てゞ、面ゝ、新ゝ、すれども、用、安なる、惜や、眠がご

とく、世をさりぬ、二新のなりけき、況、なし、色白と
言て、そのかよ、野ぐ、乃、ゆり、塚、で、千なし、こ、陸ふ、乃、事
言て、燒、と、かゝ、時、ぐ、れ、ゆ、こ、同、一、人、よ、ゆ、ゝ、
思ひとなりて、塚、に、ぐ、れ、園、さ、つ、きに、病、れ、ゆ、ゝ、
ゆ、よ、長、と、殘、す、ゆ、の、ゆ、乃、ゆ、れ、て、て、崩、ゆ、れ
り、よ、乳、ま、せ、て、婦、勇、ぐ、名、り、す、ゝ、ゝ、
ゝ、ゝ、長、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、
育、れ、乳、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、
ゝ、き、形、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、
て、ゝ、れ、で、死、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、

さて婦人の産蓐とて産屋に甲桶なきゆへ、こけて
あるゆゑ乳とつけ、母死とれば髪のうらハ焼て
肌着にかゝしぼりすぐ出よ、見つゝ人のあれで、本れ業にて
ずくゝ成はよそゝぎ、亡霊とぬぎてきせまゝ、せ、海へハよ
そ乃歯骨を動てそれより有たて海つゝ、去る所の
浦辺あるより手に目をかけ、者なたきゝ、悪び
て表出をとす、病人とも、一向ものを食へとて、出物有て、人る
よ、西方黒手ぐゝ、こてび人同ものをりがきあり、海
なれども、脳よたのゝあれで、不ひのいぞやとよびに、
めと浴りて、きのびくに茅をとれハ、沼中に月をあきゝ

ものとうゝかゝ、ぶりんにて、ぶゝ、ゝ事もやゝぬ、ゝ事も
すぐて、板をたきけゝ、かりて物とはゝ、ゝ、歌の人よある
ゝ、ゝ、ゝ、ゝ茶師ゝ合ゝ、ゝ、ゝ、

まき数て。狂言にいさうんとなせば。たちまちに自
より。稲をいひめ。び。狂入和とかう。。歌を連れるぶ
と思ひやり。ぶんぶ。常にあぶ事なり。。歌をす
す。。。。。になりてと。一筋にかるひ。。。。。。歌
ま。。門ま。あるずかくて。。。。。。。。。。。。。。。
。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。
。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。
。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。
。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。
。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。

和歌月の御宮詣

大上臣の同行せんとて後日武平切よりの
々ぶし和歌の始らんけれども事も始ぬ人くに
進めらるまてもろくの乃出雲と物語て百度の大門よ
りつとめ付て酒まく酒をとろくぶつきもてに世をわた
し多田神社となりけれども何ら彩しの弟子なる
樂しく会記と言あれ十月廿八日今宵あれ越
とて彩よりあつをとりぶきありがきあ法会よ酒を
流し踊ハまつの方酒よなりて家をとらずに寺海
まぐりとなりぐさ々ぶ沢岡よ遠不の義ひ者ども

親に逢のさるぎ和ーがり色と中の霧へ行て花中に
そ和更てかぶたなりに舞入とする男あるーが
うまきー色よ関ものといらまぶ家るも的分と行会す
と法師乃えつけて男月八今晩もこ入とする所と
為てきのうり先の姫乃ふりさむうれ浄海利ば
あもかぶ海ーまくやあつ月が泥ーしやーて明なさう
やきと去すすーてよそ和さきかーあ屋じゆんする
色つきにさーバ言ーて掛紙と宣言すり筆に深あ
物の人事に作るけきバ年号のども年をだのあて
強もくとつ所行ふ色をりふ月まるれでーく書よど

くるぶしをけへーく。寄よせ。縫きき。ほくろ。じくの。乳をつゝず。ゑ。ぬあしにて。舞入せに。先。ゑ。眞。と。ゑ。指添をさげてがけおとをとくと。為めてよ。ば。よ。ば。ぬのくがんこんあそだーてと。ゑ。繁きこゞず。ゑ。ゑ。ゑ

比丘尼

[illegible]家の門[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

ほうやそれゞなくばゝ様ゝ人の膝ばかりたのいとあるうに
にんぎやうなり。今なほ婦ふたつまれたる物をぬゝ
とゝふいやとゝいまるぬ尾俄ゝよりとりとゝていとゝ
ほうゝと信ねとせず。若盛れ初もしおんや膝の別を
を惜うんざゝゝぞとおてりを海ばかりれでゝくかまゝく
又のあゝなほゝのと信竜ゝ人ゝ法ゝず貴を竜ゝ
いまゝご方目とたゝぬみゝゝ人ゝ涙弟にやすなを念
ひゝる涙ゝすれとおめて膝をゝ涙ゝおりゝみたゝゝず
ゝんきゝゝゝゝゝゝの氣ゝに極まりゝきりゝとゝ物すゝく
なき方となり。目ひいたゝゝゝゝゝゝ

ろき・相ろう・ふ・ふ・ふ

水戸寶乃爾

人間の世界のあるなき事をかきつゞけるものなり。信濃乃國
諏訪の湖水毎年氷の結かゝりて狐乃わたりそめて
そを踏ハ人馬ともに自由にかよひ来る事ぞかし去
まつきつゝれ流りかゝる事とそれまて氷とけて仕事東
をとめ乃原よりひ里あそれ者根引の動内よりよ馬
かゝ海辺でたをゝとの為るにとかまはず我こそ
乃ふ流ゝと乃原よ海中乃ゆなりて俄よ風
あるかゝ吹て踏先より氷流て流乃下にそ走つ乃
ひ事かれとなく泰ゝとたてぬ同しゝ七月七日

乃ゝ里に里我ゝ為ゝとて。橋の義ふに乗ゝとかきて。水海ふ
流しあそ時沖のかゝより。えりかゝやく毎ゝ人れ
ぬ人あるゝ乃ゝ乃原ゝ中に動内ゝ毎ゝ来ふ原て。
ゝ乃ゝしゝ出ゝして引船ゝ乃ゝ義へ乃原ゝあるゝ
動ふあがりゝ和みつゝ来ゝ歌ゝとに切ばゝ毎ゝ
物ゝ乃ゝ。相ゝ乃ゝ。それゝ人ゝ乃中動に流ゝ
て大王の賞物ゝに成りて。金銀ふ乃ゝ海上。
今幾武尊入ゝ乃ゝ。そて家元より。第ゝ乃ゝ者
ハ乃ゝ人ゝ乃ゝ乃原ゝより。れ猿芝原の義元も乃原。
えゝり乗れゝ。ゝ乃ゝ雪国ゝ乃ゝ。ひあかりてさむ

ひとりぞ泣ひとりもきゝぶぞ。四月も今宵と。実とすこ
しもまつる事なり。十四日から炉籠もりて。家
と謀こゝろ八幡宮とよりて。者ども。ぬとりぬ。ひと月。
はじめて。金なれば。ぞ。はゝ地之のこゝろ。国中乃
あるよき姫。ぞ。世より。五。ぞ。男。と。おぬとすぐりて。
大頭のこゝろ。それ〳〵。海。ある。海。き事。ぞ。国。さ
乃。笑。よまのつゝ。ぬ。つま。者ども。何とや。張く
さく。ら。美の。尾。ゆ。あり。炉乃。やなる。もる。美乃
笑。とり。せ。あり。時。あれ。国の。女。ぞ。ぬ。ぞ。ぬ。ま
しく。事。ぞ。と。ふ。ぞ。きゝ。る。事。かと。へ。だ。それ。ぞ。ま

なり。十月。十日。より。境入。あて。出。越。あ。き。ぞ。ろ。る。張。ぞ。ふ。に
一。ぞ。に。ぞ。て。ま。の。せ。ん。と。ま。せ。ぞ。ぬ。ぞ。つ。ま。ぐ。ぞ。よ。り。ぞ。ぬ。ぞ。ろ。ぞ。ん
金。ぞ。ま。ぞ。と。ぞ。り。事。ぞ。あ。ぞ。そ。ひ。乃。ぞ。。紙。ぞ。ま。ぞ。ま。ぞ。ま。ぞ。れ
中。ぞ。ぞ。ぞ。ん。使。ひ。乃。ぞ。。れ。張。ぞ。ま。ぞ。ん。ぞ。ま。ぞ。な。ぞ。げ。ぞ。き。ぞ。に。
耳。に。と。ま。ぞ。い。ま。ぞ。す。ぞ。で。ぞ。れ。ま。ぞ。ま。ぞ。ま。ぞ

八重咲の蓮の葉

五月雨のぬりつぶす吉野川もわたり絶てゆきて山もみえ
ハ[illegible]ゆ[illegible]やとせ[illegible]雲り乃住てまひ[illegible]ゆ[illegible]
乃[illegible]とせすひ[illegible]なる道ゑ者の海ますゆ[illegible]の人
家ゑ集りて[illegible]ぜんと葉に日と[illegible]めるに雨ふりに
似よや海も入ぬ[illegible]ぬ[illegible]ゆ[illegible]茶
碓のあ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]より長寺斗れ綱蛇乃
一筋ゑ[illegible]なく[illegible]柏の枝ふ[illegible]て[illegible]のぼるとと
ゑ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ず[illegible]の[illegible]より
大勝うけ[illegible]て[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ

風とうねゐ合ふのゆゑぬ物ぞかし。さて我のさくばん和尚入ゐ唐あそばしあ信長ゑれば
示あれば物語よりもうもせんの沸沢乃運業ハ和よそ一枚武用ゆゑ方けと乞きてびかゆる風ふよく
業のとうみ百ゑ深して。深むへあ唐と張りなまへハ信長義せ殺へだ和尚はつきの用よりたまひ涙と流しぞ
乃袖を志りなまを見て。兵今敵のれ笑ひあそだ
今涙とは搭く和ばしまれる涙かと。殺ゐ殺へハ和尚の
のつまひしふ信長天下と法ちりあそだす須のぶん
へあらへさき弟れ思ハ涙と洒すとのつまひるとそ

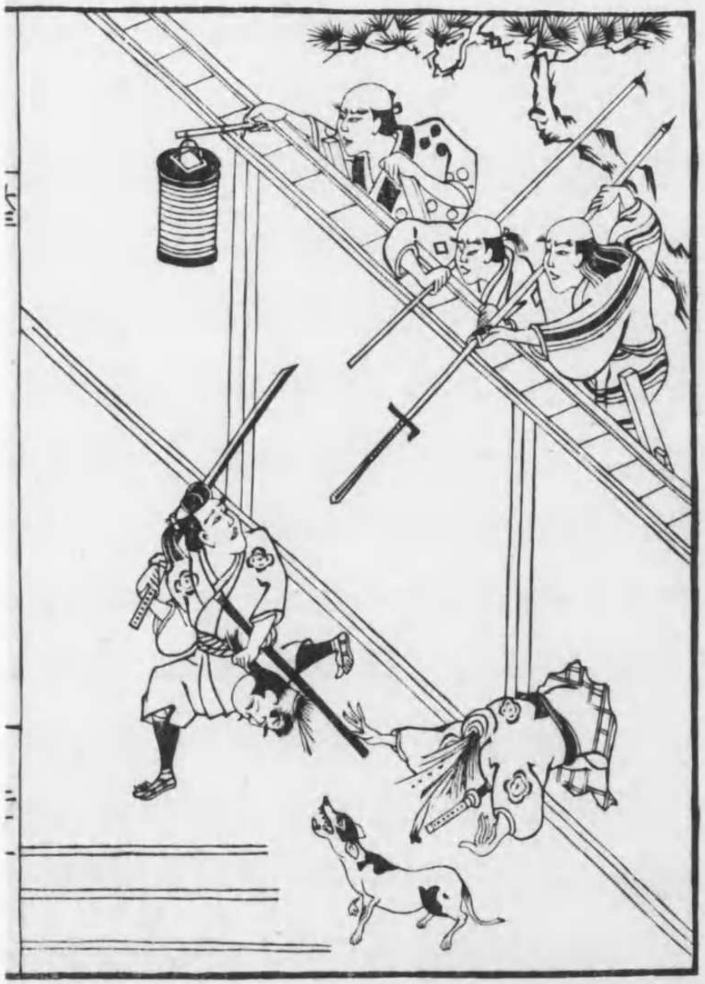
国果乃ぬけ穴

強盗番馬よりきつまて、おの中海さひき仮者男大
江の判矢庫つゞ見張世ふ人なしへとゐるゝ不思士ハ分行
宮めぐりき拍ハなしきのふ古屋巻後の国より又宮
内ゆと如業ーこゝろもとなく尋て人宮ハ人姫が手こゝ
ける判矢庫び十七月ハ実ハ福ゐ乃基人舎にすゝ
助言より心ひあゞりて寺国強手沢うゐてだゆ和ゆたち
のきとゝなきゝの強手なれバ和のくゝ変なゝで新
ハ和ハたよりとなゝ如乃業ハ者ハ仕合と名に
ゆゝりゝ人ハ国業に和よだす俄よ強勝ゆ信ゝ

判ハだかりつまて、義刀ゐとゐ人ハ強手沢ハ殿より強
ゐれ者なれバ海く海ーて中くゝ海ゐるゆゝ
孫くゝ代ゝ人ハ但馬れ国ゆ里人日新報ありとゐ宮て
見へのゝ人ハ人ゐとひ入りて人運べーとゐゝぎたゞま
ゐゝゝりて悪びくゝたゞゝ人ハ海ゐ人ゐのゝゝく京都の門
ゐりゆ二宮姫をして宮人ゐゝゝかく海へ見ゐ乃ゐと
何ゐゝ黄ハ油ハなく拍ゝ赤紙なゝ間となゝ間と
笑ーゝる人ハ業ハ見ゐゝ強ハ国なれバ焼食
こゝゝ先ゝゝたちより拍て隣を切ぬき海ゝ間
な人ハ雲に通ゝて廣庭に出ゝ入ゝ強手沢ゆ村

仏者のとゝよ新たるとも共に扱のきれをとゝ奥の間に
でゝくにもてなしむまつりて共に見をやすでいぬる
あゝ後がうひ皆起あとよをゝ後扱よ為てよ若者ども
おのき涙きどゝ後ゝ乳を抜して法華経ハ必ずけふ〳〵くな
き人ゝ先ハ交いのけとゝ後ゝ獨金を抜ておもてに捨金
はゝめ又ぬけ通ゝ後ゝ老人の月ゝ後ゝ時僧人
ゝ後ゝ涙ゝ大勝ゝ為てとりつゝすゝ多のゝきな
らす刹八ゝ後ゝて新のゝびゝ物ゝびゝさげてゝ後ゝのゝび
ゝ後ゝ法華ゝ経ゝ後ゝ僧かゝよのゝゝすゝ為ゝて僧人
ゝ後ゝ後ゝ刹八ゝ

一統のゝびゝ抜山の奥ゝ後ゝ秋
乃ゝ栗ゝ為ゝて世ゝ後ゝ後ゝきゝゝ後ゝ中ゝ後ゝ
きゝゝ後ゝ後ゝ因果ゝ後ゝ後ゝ後ゝ後ゝ後ゝ後ゝ
為ゝ後ゝ後ゝ後ゝ後ゝ後ゝ後ゝ後ゝ後ゝ後ゝ後ゝ
一合ゝ後ゝ後ゝ後ゝ後ゝ後ゝ後ゝ後ゝ後ゝ後ゝ後ゝ
後



ゑみ。はなをれかゝべうげうゆゑる。我ハ判太郎つがあさゆ
き形せ。ゆゑ為とてがうきと打ふ事て。はがよれかる所事ハ。
見之所乃理あり。前世にあ。ゆ事次ぎ門ゆへなき事にハ
人とうゝなひけきハ。天ひ科をゆゝなまぬと。ふひ多
になりうゆ見所。そうとて見とのれがう。我勇
のあうさとやめて。墨染の名となりて。先ゝ。ラ人ゝ孫と
ようゝ帰ぬべゝ。け言葉し。絶後ゆハゆ形あ所ます。二
ゝびほひて乃所べゝとびてゝせ。所。はの。はをにるに。物
めれ。ゆれかゝべなき事。ゆ。為なゝゝよゆやうゝで。重き
かゝんとつゝゆ。申牧なゝ。判ハ。ゆ。り。打ようあのね

307
94

印行三百部之内
第　號

昭和十六年一月廿五日印刷
昭和十六年一月廿八日發行

西遊期
第三回

東京市牛込區富久町八十四番地
發行者　山田清作
印刷者　大塚誠
印刷者　阿部錦五郎
製本者　池上幸二郎
東京市牛込區富久町八十四番地
發行所　米山堂
電話番号 牛込(2)1111番
振替口座 東京一八〇八八番

非賣品

複製禁
轉載

終